

■ピーター・Fドラッカー

I S Oの原点とされているドラッカー(1909-2005)の著書。彼は初めてマネジメントに関する著書を出版し、65年間の長きにわたり、個人、組織、社会の複雑な側面の関連について、効果的なマネジメントとはどうあるべきかを生涯追い求めた著述家でした。マネジメントは社会のあらゆる領域に応用されており、美術、音楽、スポーツ、医療、軍事、学問、政治、経済などで業績と成果が上がっているのは、マネジメントの知識・技術が役立っているのだという。さて、I S Oのマネジメントシステムは、このドラッカーの考え方そのもので、大いに参考になります。

1) 重要なのは人間

協力して業績を達成できる状況に人間を配置すること。つまり人材の適材適所を実現することで経営資源が顧客にとってのメリットに変貌する。人材の強みを発揮させ、弱みを無意味にすること。

2) 目標と価値観を共有

企業の使命を明確に定め、それを実現するための目標は、明確かつ簡潔で拘束力を持たなければならない。またマネージャーはそれを実現するために自ら手本となること。

3) 企業の価値

企業の価値は組織内の人間で決まる。社員数の変動よりも、優秀な人間を確保できたか、あるいは失ったかである。魅力ある企業になるためには、信頼、成果重視、プロ意識、責任感、オープン化などにより活発で共同体の文化を築くこと。

4) コミュニケーションと責任

組織で働く人間の知識と能力は多種多様である。その組織を効果的に機能させるためには、良好なコミュニケーションと個人的な責任を持たせる必要がある。社員は自分の貢献と目標を熟知し、目標を達成するためには何が必要かを常に自覚すること。

5) 人材育成の重要性

組織内の人材をよい方向に育成できればそれに越したことはないが、逆に育成がないがしろにされれば組織に悪影響が及び、それが衰退につながってしまう。組織自体の能力、強み、成長はマネージャーが優れているかどうかで決まり、それを支える人間の能力、自己啓発、成功は、人材育成が重要視されているかで決まる。

6) 仕事の水準

与えられる仕事は、今まで成し遂げられた仕事よりも大きくて遂行困難であるべきだ。そのような仕事こそ、人々に勇気を与え、それを克服しようと努力するものである。逆に要求を下げて行くとチャレンジ精神を失い、やがては墮落した人間になってしまう。

7) 時間を賢く使う

時間は毎日の行動の中でかけがえのない存在である。すべての行動は時間を必要とし、業績と成果は時間の使い方と直接つながっている。時間も経営資源のひとつであり、お金や従業員は増やせるが、時間はストックできないし、過ぎ去った時間は取り戻せない。自分の時間の使い方をリストアップし、無駄な時間はなくし業績アップに時間をつかうべきである。

8) 仕事の進め方

成果の上げ方を知らない人が驚くほどいる。そうした人たちは、自分に合わない仕事の進め方をしているので、自分が持っている潜在能力よりもはるかに劣った成果しか上げられない。自分に合う仕事の進め方を、自分の性格や方向性を考慮しながら試行錯誤で探すべきだ。

9) 他人から信頼を得る

他人から信頼を得るには良識と品位が大いに関係する。正直さ、公平さ、忠実さ、誠意、それに人の話にじっくりと耳を傾け、約束は必ず守ることが必要。また自ら協力的な行動をとり、相手を信用し、善人で有能だという前提を持つこと。

10) 効果的なマネジメント

マネジメントは大きく分けて3つから成る。「組織のマネジメント」「イノベーションのマネジメント」「人間のマネジメント」であるが、ここでいうイノベーションのマネジメントとは、組織や人間とも関係し、イノベーションを生み出す能力は組織の中心的なパワーとならなければならない。

11) 経営資源の使い方

組織は多くの分野で重要なことを同時に行うことはできない。重要な第一歩は効果と効率の障害となる事項を計画的に排除することである。排除が計画的に行われれば、競争に押されて排除するより有利になり、貴重な資源を効果的に使うことができる。変化の先頭に立つ組織と人間は、リスクを甘受しつつ、遅すぎるリスクの方が大きいと知るべきである。

12) 変化をチャンスと捉える

組織が外部の変化について行けなくなったら終わりだ。変化の先頭に立つチェンジリーダーこそこれからの時代には求められる。組織は常に絶え間ない変化を受け入れられるよう調整し、体系化しなければならない。一方変化には勇気が必要だ。手慣れたことから離れ、危険性も考慮しながら抵抗も覚悟しなければならないからだ。

参考文献：著者 P・F ドラッカー

「イノベーションと企業家精神」(1985年)「経営者の条件」(1966年)「創造する経営者」(1964年)

DAS ジャパンから

■セミナーやコンサルの勧誘には気をつけよう！

最近ISOの大改正にかこつけ、高額なセミナーやコンサルの誘いが活発化しています。

弊機関では、審査を通じて最新情報の提供やご相談に応じていますので、くれぐれもご用心を。

(編集責任者 萩原由利)



英国系 ISO 認証機関 DAS ジャパン(株)

代表取締役 萩原陸幸

東京都豊島区東池袋 3-20-16-503

info@das-japan.jp

<http://www.das-japan.jp>